

なお、主催者側の出席は文部省2名、本県は小島教育次長、佐藤総務課長、広報係員、佐竹会津教育事務所長、教育事務所広報担当者等11名が出席した。

## 12 県政広報との提携

### (1) テレビ

○FTV茶の間の県政（毎日曜日8：00～8：24）

- 5月8日 新教育長に聞く
- 5月22日 ふるさと文化財一民具
- 6月19日 フレンドシップトレーニング
- 7月24日 ふるさとの文化財一仏像
- 9月4日 公民館で楽しく学習
- 10月2日 健康は体力づくりから
- 11月6日 県文化功労者に聞く
- 1月2日 これからの漁業を担って
- 1月22日 ふるさとの文化財一土器・石器
- 2月12日 インターハイを迎えて
- 3月19日 インターハイ期待を担う①

○FCF こんにちわふくしま（毎日曜日11：30～11：50）

- 5月8日 すくすく育て一青少年健全育成グループ
- 5月22日 ふるさと散歩一岩角山
- 7月24日 ふるさと散歩一西郷藩
- 8月14日 海浜青年の家の1日
- 11月20日 伝統をまもる
- 12月4日 広がるあづま号の輪
- 12月5日 県政この1年
- 1月15日 明るく豊かな家庭を
- 1月22日 ふるさと散歩一大悲山
- 3月5日 新入学児童にこんな注意を

○NHK 話題の広場（毎月～金曜日7：20～7：35）

- 5月5日 この人に聞く一新教育長
- 2月7日 第2次県長期総合教育計画

### (2) ラジオ

○RFC みなさんとともに（毎土曜日9：25～9：40）

- 5月7日 たくましい子供たちを
- 7月9日 あなたも利用してみませんか公民館
- 7月16日 少年自然の家1日
- 7月23日 夏休みを楽しく
- 11月5日 県文化功労者に聞く①
- 11月12日 " ②
- 1月21日 インターハイに向かって
- 3月4日 もうすぐ1年生
- 3月25日 地域文化の振興一船引町

### (3) 新聞

○福島民報

- 5月22日 すべての子供に能力に応じた教育を
- 8月21日 53全国高校総体の開催準備すすむ
- 11月20日 幼児教育の充実をめざして
- 1月1日 未来へ向かう若い力
- 2月19日 未来をひらく県民のための生がい教育

○福島民友

- 6月8日 全国有数の工業高校をめざす一郡山北工高
- 8月10日 那須甲子少年自然の家オープン

1月1日 未来へ向かってグッシュ

2月8日 親子雪のつどい

○いわき民報 } 随時掲載 内容省略  
○県民だより }

### (4) 雑誌

○月刊ふくしま } 随時掲載 内容省略  
○福島自治 }

## 第6節 調査統計

昭和52年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

### 1 学校統計要覧の作成

昭和52年5月1日現在で調査した学校基本調査（指定統計第13号）の調査結果により、県内の国立・公立・私立の小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校、幼稚園、専修学校及び各種学校の学校数、学級数、児童・生徒数及び教職員数等の基本的事項を収録した学校統計要覧を刊行して、本県の教育行政上の基礎資料として広くその活用を図った。

### 2 地方教育行財政調査

この調査は、昭和51会計年度において、教育費がどのような財源から支出され、どのように使われているか。また、昭和52年5月1日現在における教育委員会の類型・組織及び教育機関数等の実態を調査し、教育行財政等に関する諸施策の資料にすることを目的としている。

また、この調査の結果については、報告書を刊行して、教育水準の向上と教育諸施策樹立のための資料として広く活用を図ったが、結果の概要は次のとおりである。

#### (1) 地方教育費の調査

##### ① 総教育費

学校教育、社会教育及び教育行政に支出した総教育費は表1に示すとおりである。

表1 総教育費（51年度）

区 分	実 額	構 成 比
総 額	145,080,918千円	100.0%
A 学 校 教 育 費	130,626,229	90.0
幼 稚 園	2,209,674	1.5
小 学 校	62,430,336	43.0
中 学 校	36,146,075	24.9
盲・聾・養護学校	2,366,190	1.6
全 日 制 高 校	25,473,030	17.6
定 時 制 高 校	1,836,366	1.3
通 信 制 高 校	147,725	0.1
各 種 学 校	16,833	0.0
B 社 会 教 育 費	8,855,530	6.1
C 教 育 行 政 費	5,599,159	3.9

##### ② 教育分野別に見た教育費

教育分野別に主要支出項目別の実額を示したものが表2～表4である。